

株枯病抵抗性のイチジク台木新品種「励広台1号」

イチジク株枯病（以下、株枯病）は、我が国で確認されたイチジクの難防除病害です。主に土壌伝染で広がり、発病園の土中には耐久性の胞子が残るため、改植しても2～3年で再発します。客土と農薬の土壌灌注が推奨されていますが、多くの労力と経費を要するため、株枯病抵抗性台木が強く望まれていました。そこで、農研機構果樹茶業研究部門と広島県は株枯病に極めて強い抵抗性を有するイチジク台木新品種「励広台1号」を育成したので紹介します。



図1 「励広台1号」の原木

☆技術の概要

1. 「励広台1号」は株枯病に極めて強いイチジク属野生種イヌビワとイチジクとの種間雑種から選抜されました(図1)。
2. 「励広台1号」は、株枯病菌の有傷接種試験に対して、病斑の拡大がほとんど無く、イヌビワと同程度の極めて強い抵抗性を示します(表1)。
3. 土壌接種試験においても「励広台1号」の挿し木苗は、イヌビワと同様に株枯病は発病せず、強い抵抗性を示します(表2)。
4. 「励広台1号」は、発根促進剤を使用しなくても休眠枝挿し木及び緑枝挿し木ともに発根性は高く、挿し木苗の生育は良好です。
5. 「励広台1号」は「樹井ドーフィン」及び「蓬萊柿」ともに高い接ぎ木親和性を示し、癒合部の活着も強固です(図2)。



図2 「励広台1号」台の「蓬萊柿」の接ぎ木部の状況

表1 イチジク株枯病の有傷接種試験における累積枯死率の推移

品 種	累積枯死率(%)				
	接種後の日数				
	10日	20日	30日	50日	70日
励広台1号	0	0	0	0	0
樹井ドーフィン	75	100			
蓬萊柿	20	90	90	100	
ポルディード・ネーグラ	30	100			
イヌビワ	0	0	0	0	0

表2 イチジク株枯病の土壌接種試験における累積枯死率の推移

品 種	累積枯死率(%)				
	接種後の日数				
	30日	60日	90日	120日	180日
励広台1号	0	0	0	0	0
樹井ドーフィン	44	100			
蓬萊柿	33	56	78	78	89
ポルディード・ネーグラ	42	67	67	67	67
ネグロ・ラルゴ	36	64	64	64	64
イヌビワ	0	0	0	0	0

☆活用面での留意点

1. 株枯病の発生園ならびに発生が懸念される産地への普及が期待されます。
2. 「励広台1号」に接ぎ木した穂木部分は株枯病に抵抗性を持たないので、雨滴の跳ね返り等による穂木部分への感染を防ぐため、栽培に支障の無い範囲で台木の長さを長くする必要があります。
3. 詳細については、農研機構果樹茶業研究部門安芸津ブドウ・カキ研究拠点 (TEL:0846-45-4714) にお問い合わせください。